

春日寺区防犯パトロール隊（愛知県）



皆様こんにちは。ただいま紹介いただきました愛知県小牧市春日寺と書いてカスガンジと読みます。防犯パトロール隊代表の梅田でございます。本日は、活動設立当初から一緒に頑張ってくれた、ここにおります山口と、あちらにおります2人と合わせて4人でお邪魔しました。よろしくお願いいたします。

それでは発表させていただきます。



中学生とともに歩む地域防犯活動 ～地域を見守り、中学生の成長を見守る～

- 1 春日寺区防犯パトロール隊の紹介
 - ・概要、活動地域
 - ・設立の経緯、特長
- 2 春日寺区防犯パトロール隊の防犯活動
 - ・防犯パトロール、清掃パトロール
 - ・工夫している点
 - ・近隣地域との連携
- 3 春日寺地区防犯パトロール隊のこれから
 - ・活動の成果
 - ・課題
 - ・今後の取組（春日寺区の未来に向けて）

1

この場面は、コロナがまん延する前の写真で、帽子をかぶっていないのが中学生です。これも中学生の配慮の一環です。中学生とともに歩む地域防犯活動、3点について御説明をさせていただきます。

中学生とともに歩む地域防犯活動 ～地域を見守り、中学生の成長を見守る～

1 春日寺区防犯パトロール隊の紹介

2

1 春日寺区防犯パトロール隊の紹介

かすがんじく

春日寺区防犯パトロール隊（愛知県小牧市）

■設立年月日
平成16年10月21日

■隊員（発足当時）
代表 梅田三枝子
中学生7名 大人26名 合計33名
・平均年齢 48歳（中学生を含む）
・男女比 男性17名、女性16名

（R元年12月末現在）
中学生15名 大人31名 合計46名



3

パトロール隊の紹介です。設立年月日、平成16年10月21日。発足当時中学生が7名、大人26名、合計33名で始めました。令和元年12月末現在では、中学生が15名、大人が31名の合計46名です。

1 春日寺区防犯パトロール隊の紹介

■活動地域



1 春日寺区防犯パトロール隊の紹介

■パトロール発足のきっかけ（平成16年）

- ①車上狙いの被害に合い、防犯意識が強くなった
- ②地域住民の懇談会で「中学生の力を地域で生かそう」というテーマで話し合った
- ③子どもの頃、近所の子どもが集まり、「火の用心」を呼びかけていた

中学生と地域住民が参加する
防犯パトロールをしよう！

5

次に活動地域の御説明をさせていただきます。私たちの春日寺は、愛知県の北西部にあります。442世帯、人口2,400人の地区です。地区のすぐ隣には、県営名古屋空港、地区内には航空自衛隊小牧基地があります。小牧市では、小学校区が複数の自治区に分かれており、自治区単位で防犯活動を行っています。現在、83団体が市内で活動しています。活動資金は、小牧市より助成していただいております。

1 春日寺区防犯パトロール隊の紹介

■パトロール発足のきっかけ（平成16年）

H16.10.3
実行委員会開催
(中学生も参加)



平成17年2月号春日寺区防犯パトロール隊通信

H16.10.21 春日寺区防犯パトロール隊発足
(パトロール開始)



中学生も積極的に参加！

6

次に発足のきっかけです。平成16年当時、私が車上ねらいの被害に遭い、身近でも犯罪が起こり得ることを実感し、防犯意識が強くなりました。また、同じ時期に地元の中学校、小牧市立応時中学校から、「中学生の若い力を地域で活かす場はないか」との要望を受けました。そしてもう1点は、私たちの子供の頃、火の用心を呼びかけていた、この3点がきっかけで中学生と地域住民の皆さんたちで、防犯パトロールを行うこととなりました。

中学生とともに歩む地域防犯活動
～地域を見守り、中学生の成長を見守る～

2 春日寺区防犯パトロール隊の防犯活動

7

2 春日寺区防犯パトロール隊の防犯活動

中学生が参加する防犯パトロール

—中学生が自分たちの言葉で地域に防犯を呼びかける！—



- 毎月第1、3木曜(月2回) 午後7時～午後8時まで
- ・生徒が先頭となり、地域住民とともに2期に分かれてパトロール
- ・生徒が考えた犯罪防止標語をハンドマイクで呼びかける
- ・身を安全を守るために赤色灯を持ち、「春日寺区防犯」とかかれたお揃いのジャンパーを着用
- ・生徒自身で防犯マップを作成

8

早速行動に移しました。最初に、区長さんに私の思いを話し相談しました。「梅田さんが先頭に立つなら協力を惜しまないよ」との言葉を頂きました。早速、学校に相談しに行き、その後警察、市役所にもお願いに行きました。中学生の意見を聞くことが必要不可欠だと思い、実行委員会に参加してもらいました。なかなか意見が出ない中、1人の中学生が「ハンドマイクを持ってやってみたい」と、手を挙げてくれました。隊員の募集は、中学生は学校から、大人は口コミで行い、同時に役員は、代表が1名、副代表2名、幹事2名、会計1名、この会計は中学生の親御さんにやっていただきました。活動日の日程と内容を確認し、平成16年10月21日、パトロールを開始いたしました。集合同所を春日寺会館と決め、毎月第1第3木曜日、雨天順延で月2回は必ず行う。時間は午後7時

から午後8時。東西2つのパトロールルートを設定し、2班に分かれ、それぞれ中学生が先頭となり、交代でハンドマイクを使い、自分たちの言葉で地域に防犯を呼びかけています。また身の安全を守るために赤色灯を持ち、春日寺区防犯と書かれたお揃いのジャンパーを着用しています。画面右側は、生徒自身で防犯マップを作成しました。全戸配布し、拡大マップは体育館に掲示してあります。

2 春日寺区防犯パトロール隊の防犯活動

◎通学路の清掃パトロール

— 中学3年生が卒業前に通学路の清掃をしながらパトロール! —



中学校のホームページ上でも「地域活動の好事例」として紹介

10

2 春日寺区防犯パトロール隊の防犯活動

■活動上の工夫

春日寺の中学生総員は、15年間継続参加 参加率90%達成

◎中学生の活動を継続させるための工夫

- ・適切な活動回数の設定
→ 月2回【無理のない活動】
- ・長時間拘束しない（活動後の反省会はない）
→ 負担軽減、夜間の帰宅時の安全確保
- ・発足時から中学生が参加
→ 「活動に中学生ありき」という意識が定着



11

3年間通った通学路に感謝の意を込めてゴミ拾い活動もしております。この様子は中学校のホームページ上でも、地域活動の好事例として紹介されました。

次に活動上の工夫です。地区の面積や活動人員などの体制を勘案すると、月に2回が無理のない活動として継続できる回数と判断し、その結果として高い参加率、毎回40名程度、中学生に限っては90%程度を維持できています。これまでも、例えば週1回にするとか、活動回数を増やすべきという意見もありましたが、週1回であれば、今週休んでも来週参加すればいいというような逃げの気持ちになりやすいことから、あえて月2回の活動に制限しながら、随時警察や市役所の行事にも参加しています。また活動後、中学生と役員とで反省会を行っていたこともありましたが、とても有意義な反省会でしたが、長時間拘束することによる中学生の負担を軽減するとともに、中学生だけで夜間に帰宅することを防ぐため、思い切って毎回の反省会をやめ、年度1回の活動終了後に活動方針を確認するのみとすることで、安全確保を図っています。また、パトロール隊発足時の打ち合わせから中学生が参加しているため、活動には中学生ありきという意識が、当初から定着しています。

2 春日寺区防犯パトロール隊の防犯活動

■活動上の工夫

春日寺の中学生総員は、15年間継続参加 参加率90%達成

◎中学生のやる気を引き出すための工夫（つづき）

- ・防犯ジャンパーの効果的な活用

「春日寺区防犯」と書かれたお揃いのオリジナルジャンパーは各自自宅に持ち帰って管理

効果

- ①活動参加の使命感が向上
- ②活動日に自宅から着用して集合することで、
・自らの身を守る
・集合場所まで移動する間も防犯をPRできる



12

2 春日寺区防犯パトロール隊の防犯活動

■活動上の工夫

春日寺の中学生総員は、15年間継続参加 参加率90%達成

◎中学生のやる気を引き出すための工夫

- ・多感な時期であることを理解し、褒め方や叱り方を工夫
→ 叱るときは、同一人物（代表・女性）から
- ・地元メディアへの働きかけ
→ 中学生の活動のPRと地域の知名度向上のため、積極的に取材を依頼



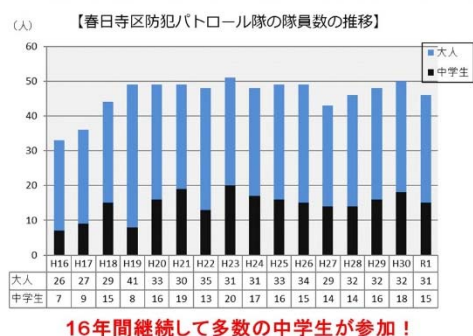
13

次に、防犯ジャンパーの効果的な活用。参加者は春日寺区防犯と書かれたジャンパーを着用して活動していますが、ジャンパーを各自、自宅に持ち帰り、管理してもらうことにしています。ジャンパーを自分で管理することにより、防犯意識と活動参加の使命感が向上しています。また活動日に

は、自宅から防犯と書かれたジャンパーを着用して集合することで、自分の身を守ることができる
とともに、集合場所まで移動する間、防犯PRができるなど、効果を生んでおります。

また、多感な中学生心理に配慮もしています。地区の中学生が1年生から3年生まで集まる機会
は多くないため、時には羽目を外したり、おしゃべりが止まらなかったりしますが、多感な中学生
の心理を理解し、そのような時に注意するのは代表のみというルールを、大人の役員の中に作りま
した。これは、複数の大人から同じことと言われて注意されることで煩わしさを感じてしまい、男性
が注意すると厳しすぎたりすることに配慮したものであり、代表を通して伝達することにしていま
す。また褒めるときは、パトロール終了後、団員の前で行うようにしています。

2 春日寺区防犯パトロール隊の防犯活動



また春日寺地区は市内の南端に位置し、あまり知ら
れていない地区でもあったことから、活動のPRと地域
の知名度向上のため、地元メディア、ケーブルテレビや
新聞社に取材の依頼をしました。メディアに取り上げ
られることで、中学生のやる気も向上しました。この取
組は、非常に効果を得ることになりました。パトロール
隊員の推移です。16年間継続して多数の中学生が参加
しております。

中学生とともに歩む地域防犯活動 ～地域を見守り、中学生の成長を見守る～

3 春日寺地区防犯パトロール隊のこれから

- ① 中学生の活動が地域に定着
- ② 近隣地域との連絡体制の構築
 - ・小牧南地区防犯パトロール連絡会議の設立
 - ・隣接する春日井市学区との情報交換会の申し入れ
- ③ 地域全体の防犯意識が向上
- ④ 活動地区の犯罪発生件数が大幅に減少

3 春日寺区防犯パトロール隊のこれから

【活動の成果①】中学生の活動が地域に伝承され、定着



- ・上級生から下級生へ、活動する楽しみが口コミで伝承
- ・活動した生徒が卒業する際には、警察署長から感謝状が贈呈

3 春日寺区防犯パトロール隊のこれから

【活動の成果②】地域全体の防犯意識が向上



- ・中学生の一生懸命な声掛けを聞き、地域住民から労いの声がかかる。
- ・パトロール出発時に、警察や市役所、応時中学校長による激励をもらう。

ミで伝承されていることも、いい方向に作用しています。時に中学生の一生懸命な声かけを聞き、
地域住民は夜間でも窓を開けて手を振ってくれたり、幼稚園児が「御苦労様です」と声をかけてく
れることもあります。この声かけは、隊員の励みになっております。また出発時には、警察や市役
所、応時中学校長による激励をもらい、中学生のやる気を引き出しています。左は、小牧警察署長が

らの激励の様子です。

3 春日寺区防犯パトロール隊のこれから

【活動の成果③】 防犯パトロール活動の近隣地区へ波及

H16.10.21	春日寺区防犯パトロール隊発足
H17.7.6	南外山防犯推進クラブ発足
H17.9.8	桜井防犯パトロール隊発足
H17.12.11	北外山防犯パトロール隊発足
H18.10.1	小牧南地区防犯パトロール連絡会設立
H21.4.1	二重堀区防犯パトロール隊発足
H21.6.1	竹林区防犯パトロール隊発足
H22.7.10	米野地区防犯パトロール隊発足

春日寺区防犯パトロール隊の発足以降、近隣6地区に次々に防犯パトロール隊が誕生

春日寺区防犯パトロール隊のメディアへの呼びかけ等の情報を、見たり聞いたりした隣の区の方が、我が区に泥棒が来ては困る、大変とパトロール隊を立ち上げました。そして、平成18年に小牧南地区の4団体が発足したことを受け、小牧南地区防犯パトロール連絡会を設立しました。その後、3団体が加わり、現在7地区で年数回、地区の現状と活動の効果や要望を話し合うなど、中学校全体の防犯活動をリードしています。また近隣のパトロール隊も同様に中学生が参加しており

ますが、春日寺地区は、パイオニアとして中学生の高い参加率を維持しており、その秘訣を聞かれることも多いです。皆さんのお手元に、参考資料としてお配りさせていただきました。中学生の募集要項の用紙です。御覧いただけるとありがたいです。

3 春日寺区防犯パトロール隊のこれから

【活動の成果③】 近隣地域との連絡体制の構築

◎小牧南地区防犯パトロール連絡会（H18～）



春日寺区防犯パトロール隊
南外山防犯推進クラブ
桜井防犯パトロール隊
北外山防犯パトロール隊
二重堀区防犯パトロール隊
竹林区防犯パトロール隊
米野地区防犯パトロール

- ・近隣地域に中学生のパトロール活動が普及したことから、近隣6地区の防犯パトロール隊や各自治会長により構成
- ・年数回、警察、市役所、区長を招き、地区の活動の現状と効果、要望等を話し合う。

3 春日寺区防犯パトロール隊のこれから



春日寺区から「中学生とともに行う防犯活動」が波及！

3 春日寺区防犯パトロール隊のこれから

◎春日井市牛山地区・小牧市南地区パトロール団体情報交換会（H30）



- ・春日寺区は、春日井市との境界に位置しているため、警察に隣の春日井署管内の防犯パトロール団体との情報交換の必要性を訴えた
- ・両地域のボランティア団体、警察署、市役所が一堂に会しての情報交換会が実現
- ・今後のパトロール活動をより実効のあるものとするために話し合う。

3 春日寺区パトロール隊のこれから

【活動の成果④】 活動地区の犯罪発生件数が大幅に減少

【小牧南学区における犯罪発生状況の推移】



この映像は防犯パトロール連絡会の会議の様子です。春日寺地区から波及した地区です。真ん中の空いているところに応時中学校があります。

平成30年に、最寄りの駅周辺で生徒が犯罪被害に遭いかけた事例がありましたが、駅周辺は隣の春日井警察署の管轄であり、情報が入ってこない状況でありました。そこで、春日井警察署とも情報交換開催を申し入れ、実現するなど、情報交換や連絡体制の構築に努めています。これは、犯罪が大幅に減少したグラフです。

■課題

大人の隊員の高齢化

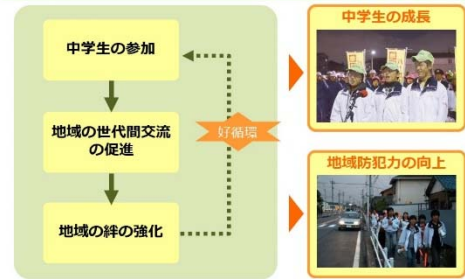
発足以降16年間、役員が固定

- ・後継者の育成
- ・役員を引き継ぐ規程の整備

23

■今後の取組 - 春日寺区の未来に向けて -

中学生の参加を地域の伝統として継続させていきたい



24

課題。大人の隊員の高齢化が課題であり、特に役員は発足当時のメンバーが、これまでの16年間、継続して活動してきているため、後継者を育成していく必要があります。かつて活動していた中学生の親御さんもパトロール隊の中に入っておりますが、役員を引き継いでいくルールがないので、整備していきたいと思います。

今後の取組。中学生の参加を地域の伝統として継続させていきたいです。その結果、地域の世代間交流の促進、地域の絆の強化、と好循環になり、中学生の成長、地域防犯力の向上につながっていくと思います。

ここでパトロール隊卒業生のコメントを参考までに報告します。現在20代前半の人です。「地域の方と深く関わりができた。地域の防犯に貢献できた、自分のためにもなったようで、今でもマイク広報文を覚えています。その当時の経験を生かしています」と、大変素晴らしい感想を頂きました。

最後に。誠に残念ですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校側から中学生の安全を第一に考えてほしいと話がありました。中学生の参加を控えております。今後、中学生が参加できるように、現在は大人だけのパトロールを継続しています。しかしながら、春日寺区防犯パトロール隊が、小牧市で初めて中学生との防犯パトロールを行った団体であることから、中学生の参加をこれからも、10年、20年と継続していき、長続きさせていくことに重点を置き、単に社会奉仕活動を経験するだけでなく、思春期である中学生が、恥ずかしがらずに自分の声を出して活動する、このこと自体が大切なことで、それにより自らの、そして地域の防犯意識が向上すれば素晴らしいことだと思います。御静聴、ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

気楽に、気長に、危険なく……パトロール活動を継続中です。

安全・安心の小牧
めざして頑張るぞ！

春日寺区防犯パトロール隊

質疑応答

山本 御報告ありがとうございました。私、不勉強で今日まで知らなかったんですけども、中学生ともう16年間やってらっしゃる。正直びっくりしました。これも目の付けどころというか、言われてみると確かにこれはいいなと。なんで他の地域は今までやってこなかったんだろうと思うぐらい、目からウロコの活動だと、私は思いました。

梅田 ありがとうございます。

山本 皆さんも思いますよね。ただもうすでに16年間おやりになっているから、色々な見学とか視察とかあったんじゃないかと思うんですけど、他地域で。それはなかったんですか。

梅田 それはなくて、今日来ております隊員の皆さんと相談して、模索しながら、本当に初めての中学生とのパトロールでしたので、メディアの方に声かけをしたというのは、中学生が自分たちが役に立っているんだという意識を持ってもらおうと思って、そちらの方を優先しながら、皆さんにお知らせしながらやりました。それともう1つは、やっぱり警察の方の御協力もありまして、その都度、署長や交通安全課の課長等が激励に来ていただいております。中学生というのは、そういう場がなかなか体験できないんですね。それも御協力いただいて、色々なアイディアとかもいただきながらやったのもよかったのかなと思います。

もう1つは、最初中生がここまで継続して、伝統みたいになってきているというのも、最初の頃は、やっぱりアメとムチじゃないですけど、多少パトロールに来たら楽しみがある、ジュースを1本ずつ配るとか、そういう活動も入れていきました。今日もっとその時の様子とかもお話したかったんですが、時間が限られていましたので、まとめさせてもらいました。そういった楽しみも取り入れて、ほんと模索しながらやっていきましたので、他の所に見学に行くとかいうのはなかったです。

山本 むしろ、春日寺地区に…

梅田 それはあります。私の話をしに他の地区にも行きました。連絡会を7地区で設立しましたけれども、そこも一度私達のパトロールを見学に来ていただいて、同じような活動をしております。ただ区の地域性がありまして、生徒さんが少ないとかありますので、7地区の中でも2地区は中学生がまだいないという状況で、あとの5地区は中学生と一緒に頑張っております。人数は多少の差があります。

山本 これを近隣の地区が真似ていって広がっているんですね。その中で近隣の地区がこれを真似る時の一番のポイントは、どの辺にありますか。うまく活かせるポイントですね。どの辺りを一番アドバイスされましたか。

梅田 まず一番は、中学生の身になって考えてあげるということですかね。それと、中学生も3年間やると、警察からの感謝状もいただけますよというのと、学校を通じてやっていますので、学校の方の評価もいただいておりますので、そういった点を他地域の方にもお伝えしています。

山本 割と真似て、うまくいっているものですか。

梅田 うまくいっています。

山本 これは、割とどこでも採用可能なやり方ということですかね。

梅田 そうですね。ただ1つ中学校の理解がないと、大変難しいんじゃないかというのはありますね。

山本 平成16年に導入された時に、中学校の理解を得るのは大変だったんですか。

梅田 いえ、私その当時は民生委員をやっておりまして、中学校の方に応時フォーラムというのがありまして、そこに参加したんですね。その時に学校側からちょうどタイミングよくというのか「中学生が地域で働ける、活動できる場所はないか？」という提案があったんです。それで、最初のきっかけのときにお話させてもらったように、私が被害に遭ったり、昔は皆さんも覚えがあると思うんですけど、子供会で「火の用心」と言って回って歩いていたのを思い出しまして、パトロールができないかなと思って学校に相談に行ったんです。夜でもあるので、最初、学校も少し考えていたんですけど。色々と気をつけながら1回やってみましょうということで、御理解をいただきました。

山本 そうですね。昔は火の用心とかだったら、子供と一緒にやるというのが、割と広くあちこちでもしていたと思うんですけど。もうそれは途絶えてしまっていますね。それも中学生とかじゃなかったんじゃないかと思うんですけど。

梅田 そうです、小学生。

山本 一番難しい時期の中学生とおやりになったという部分で、一石何鳥もの効果があるんだろうなと思わされます。これを高校生に広げるとか、逆に小学校の高学年を取り込んでいくとかは、考えていらっしゃらないんですか。

梅田 高校生も一時、1人入ったことがあるんですけど、やっぱり高校は通う範囲が多方面にわたるので、なかなか継続して来てくれるというのは難しいので、高校生は自然消滅という感じになっていきました。小学生は、私がこのパトロールをする際に一番考えることは、パトロール中に事故があったらどうしようかというのが頭にありました。例えば、全国で通学班のところに自動車が突っ込んできたとかいうニュースを聞きますと、そこに小学生を巻き込むというのは、私たちでは対応できないなと、安全を守るのに対応できないのかなと思って、あえて中学生のみにしております。

山本 なるほど。この活動がぜひ、全国で広がっていくといいなと思わされました。

梅田 ありがとうございます。

山本 どうもありがとうございました。